

世界の主な地震

平成 30 年（2018 年）1 月に世界で発生したマグニチュード（M）6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布を図 1 に示す。また、その震源要素等を表 1 に示す。

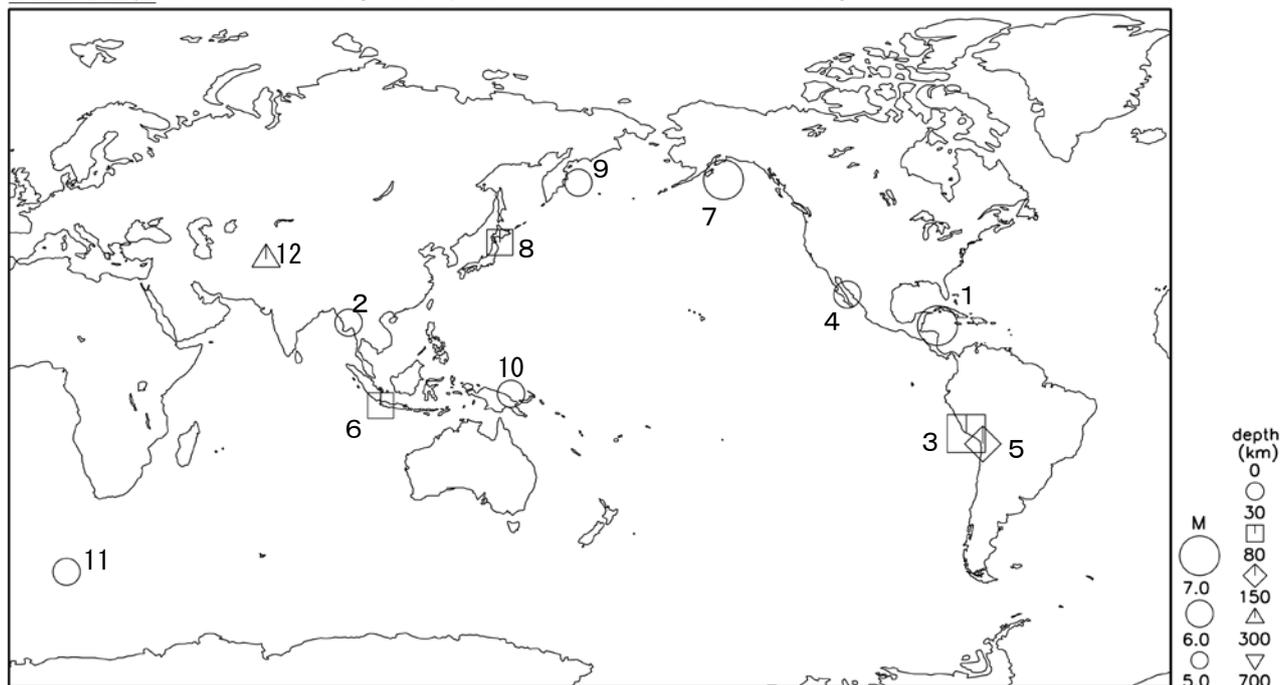


図 1 平成 30 年（2018 年）1 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布

表 1 平成 30 年（2018 年）1 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	地震発生時刻	緯度	経度	深さ (km)	mb	Mj	Mw	震央地名	備考 (被害状況など)	北 西	遠 地
1	10日11時51分	N17° 28.5'	W083° 31.2'	10			(7.5)	ホンジュラス北方			○
2	12日03時26分	N18° 21.8'	E096° 4.7'	9			6.0	ミャンマー			
3	14日18時18分	S15° 45.5'	W074° 42.6'	39			(7.1)	ペルー沿岸			○
4	20日01時17分	N26° 40.8'	W111° 6.4'	10			6.3	カリフォルニア湾			
5	21日10時06分	S18° 53.3'	W069° 37.0'	111			6.3	チリ北部			
6	23日15時34分	S07° 11.7'	E105° 55.1'	44			6.0	インドネシア、ジャワ島			
7	23日18時31分	N56° 2.8'	W149° 4.4'	25			(7.9)	アラスカ湾			○
8	24日19時51分	N41° 0.5'	E142° 26.8'	34		6.3	(6.4)	青森県東方沖			
9	25日11時10分	N55° 24.2'	E166° 28.7'	9			6.2	コマンドル諸島			
10	27日07時47分	S03° 30.8'	E145° 50.9'	10			6.3	ニューギニア島北部沿岸			
11	29日01時03分	S53° 3.7'	E009° 41.0'	10			6.6	アフリカ南西方			
12	31日16時07分	N36° 32.6'	E070° 48.9'	191			6.1	アフガニスタン、ヒンドゥークシ			

- ・震源要素は米国地質調査所(USGS)ホームページの” Earthquake Archive Search & URL Builder” (<http://earthquake.usgs.gov/earthquakes/search/>) による (2018 年 2 月 1 日現在)。ただし、日本付近で発生した地震の震源要素、Mj の欄に記載したマグニチュード、Mw の欄に括弧を付して記載したモーメントマグニチュードは、気象庁による。
- ・被害状況は、出典のないものは OCHA (UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs: 国連人道問題調整事務所)、国内は、総務省消防庁による。
- ・地震発生時刻は日本時間 [日本時間 = 協定世界時 + 9 時間] である。
- ・「北西」欄の○印は、気象庁が北西太平洋域に提供している北西太平洋津波情報 (NWPTA) (地震・火山月報 (防災編) 2005 年 5 月号参照) を発表したことを表す。
- ・「遠地」欄の○印は、気象庁が「遠地地震に関する情報」を発表したことを表す。
- ・深さに「*」を付したものは、気象庁による CMT 解のセントロイドの深さを表す。

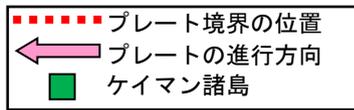
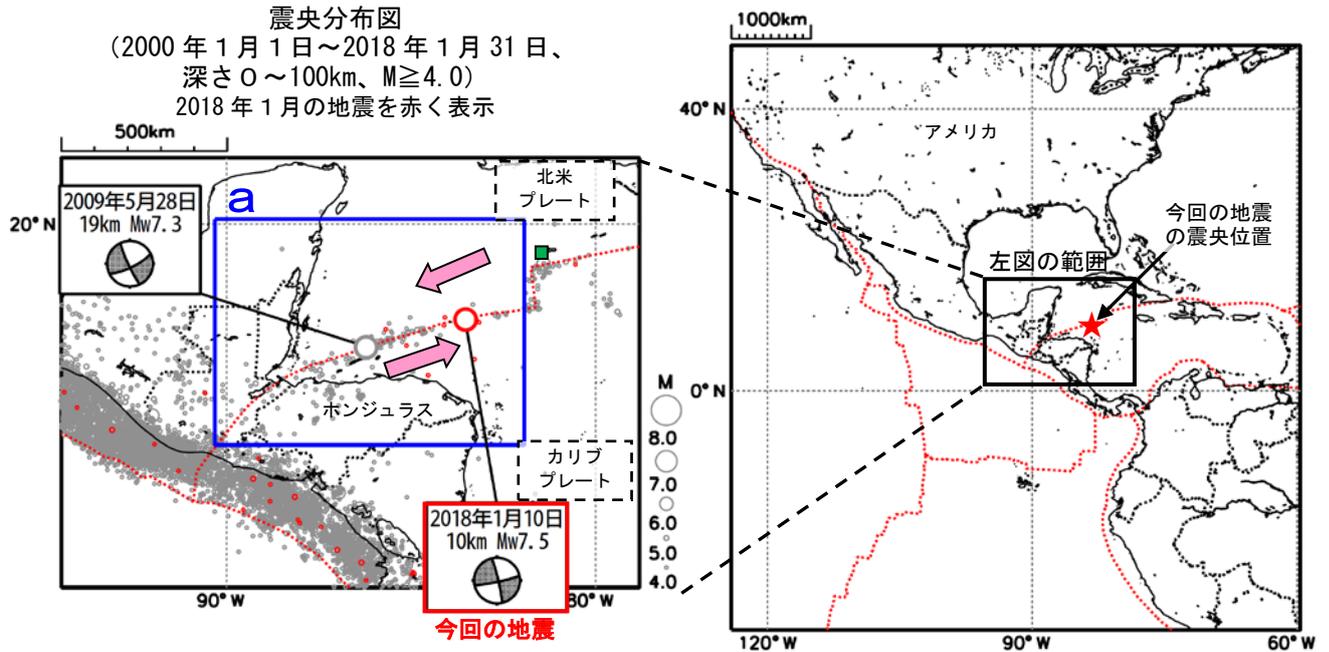
1月10日 ホンジュラス北方の地震

2018年1月10日11時51分（日本時間、以下同じ）にホンジュラス北方の深さ10kmでMw7.5の地震が発生した。この地震は発震機構（気象庁によるCMT解）が西北西-東南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、北米プレートとカリブプレートの境界で発生した。

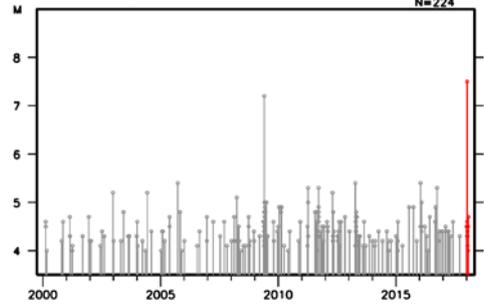
気象庁は、この地震に対して、同日12時18分に遠地地震に関する情報（日本への津波の影響なし）を発表した。この地震によりケイマン諸島で26cmの津波を観測した。

2000年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域a）で、2009年5月28日に発生したMw7.3の地震では、死者7人等の被害が生じている。

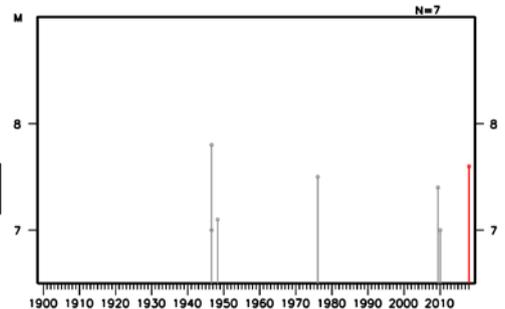
1900年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、M7.0以上の地震が時々発生し、周辺で被害をもたらしている。1976年2月4日のMw7.5の地震では、グアテマラで死者2万人以上の被害が生じた。また、2010年1月13日のMw7.1の地震では、ハイチで死者30万人以上の被害が生じた。



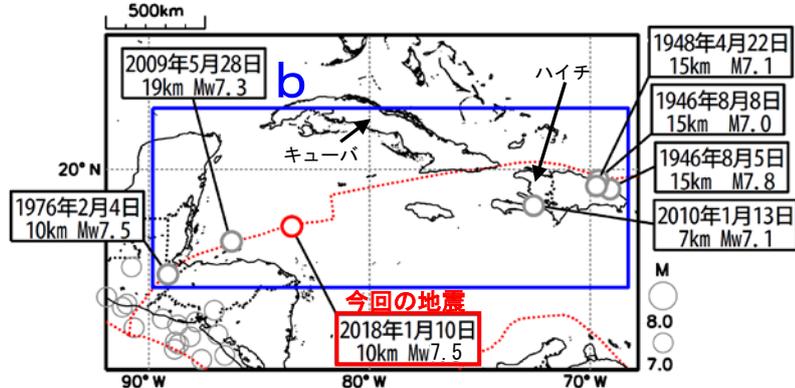
領域 a 内の M-T 図



領域 b 内の M-T 図



震央分布図
 (1900年1月1日~2018年1月31日、
 深さ0~100km、M \geq 7.0)
 2018年1月の地震を赤く表示



※本資料中、(上図) 今回の地震と2009年5月28日の地震の発震機構とMwは気象庁、震源要素は米国地質調査所 (USGS) による (2018年1月31日現在)。(下図) 今回の地震と2009年5月28日の地震、2010年1月13日の地震のMwは気象庁、1900年~2013年の震源要素は国際地震センター (ISCGEM)、2014年以降の震源要素は USGS による。今回の地震の津波の高さは、米国海洋大気庁 (NOAA) による。過去の地震の被害は、宇津の「世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置と進行方向はBird (2003) *より引用。

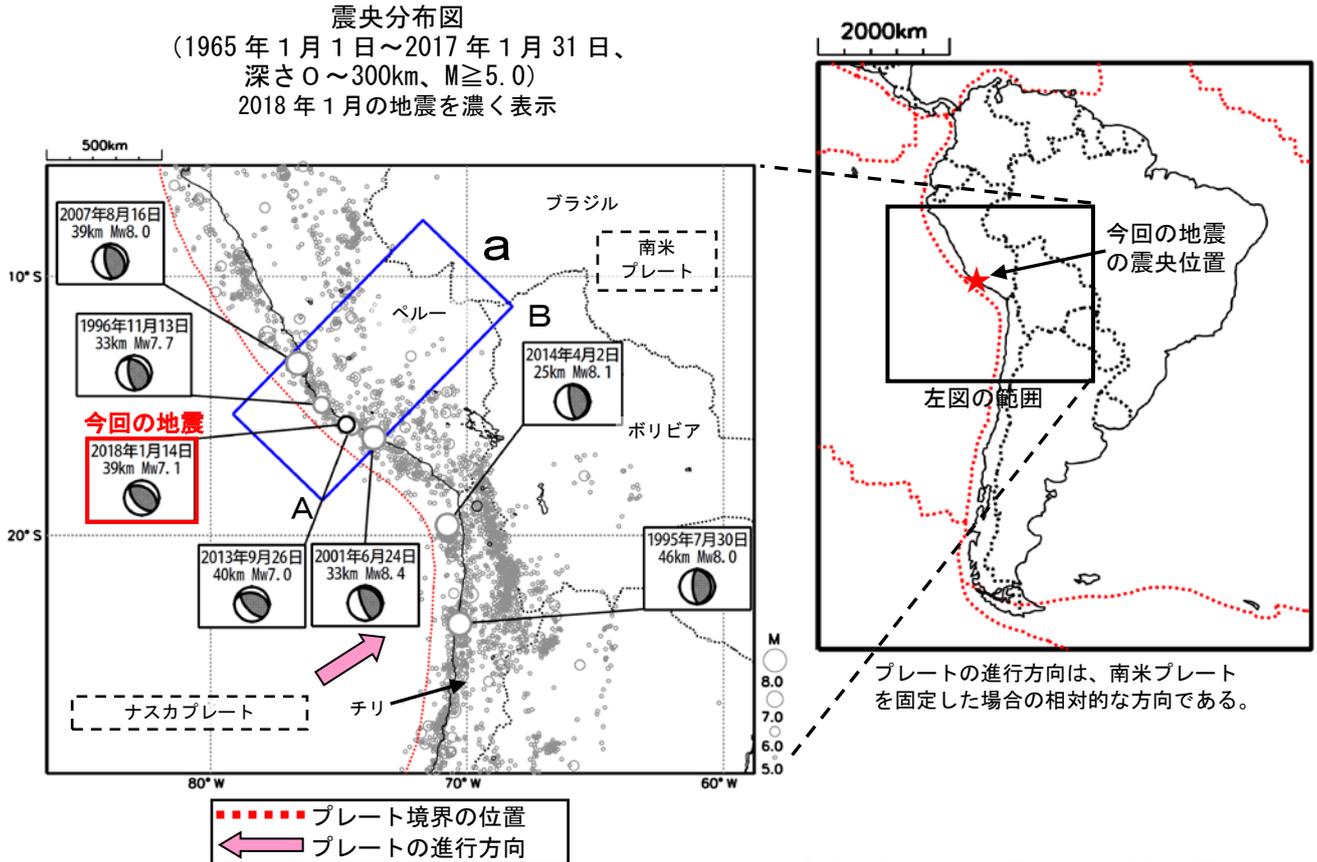
*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

1月14日 ペルー沿岸の地震

2018年1月14日18時18分（日本時間、以下同じ）にペルー沿岸の深さ39kmでMw7.1の地震が発生した。この地震は発震機構（気象庁によるCMT解）が北東-南西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、沈み込むナスカプレートと南米プレートの境界付近で発生した。

気象庁は、この地震に対して、同日18時42分に遠地地震に関する情報（日本への津波の影響なし）を発表した。

1965年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域a）では、M6.0以上の地震が度々発生するなど地震活動が活発な領域である。今回の地震から東南東方向に約100km離れた場所では、2001年6月24日にMw8.4の地震が発生し、死者139人、負傷者2,687人の被害が生じた。また、この地震により太平洋沿岸の広い範囲で津波が観測され、ペルーでは数m、チリのアリカで129cmなどの津波を観測した。日本国内でも根室市花咲で最大の高さ28cmの津波を観測した。



※本資料中、今回の地震と2007年8月16日（Mw8.0）、2013年9月26日（Mw7.0）、2014年4月2日（Mw8.1）の地震の発震機構とMwは気象庁、その他の地震の発震機構とMwはGlobal CMTによる。その他の地震の震源要素は米国地質調査所（USGS）による（2018年1月31日現在）。2001年6月24日の地震の被害は宇津の「世界の被害地震の表」、津波の高さは、米国海洋大気庁（NOAA）及び気象庁による。プレート境界の位置と進行方向はBird（2003）*より引用。

*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

1月23日 アラスカ湾の地震

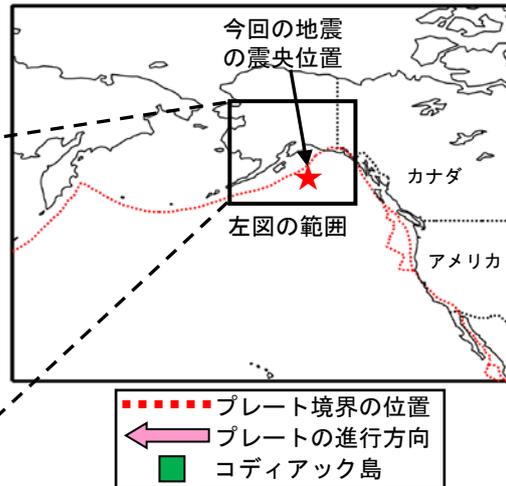
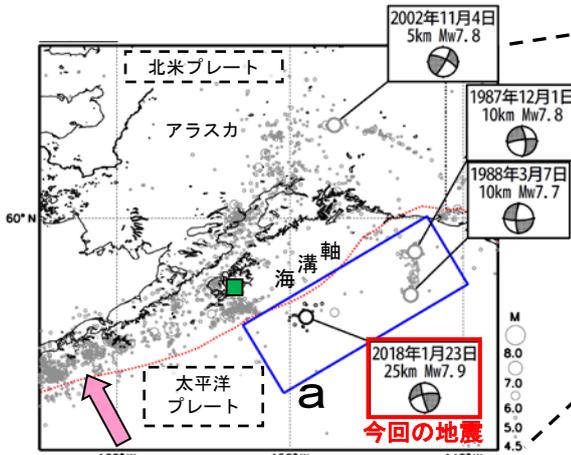
2018年1月23日18時31分（日本時間、以下同じ）にアラスカ湾の深さ25kmでMw7.9の地震が発生した。この地震は発震機構（気象庁によるCMT解）が西北西-東南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、北米プレートの下に沈み込む前の太平洋プレート内部で発生した。今回の地震の発生後、今回の地震も含めM4.0以上の地震が85回発生している（1月31日現在）。

気象庁は、この地震に対して、同日18時56分に遠地地震に関する情報（日本への津波の有無について調査中）、同日19時50分に遠地地震に関する情報（日本への津波の影響なし）を発表した。この地震によりコディアック島（アメリカ）で21cmの津波を観測した。この地震による被害はなかった。

1980年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域a）では、時々M6を超える地震が発生しており、1990年前後には、1987年12月1日にMw7.8、1988年3月7日にMw7.7の地震が発生するなどまとまった地震活動がみられた。

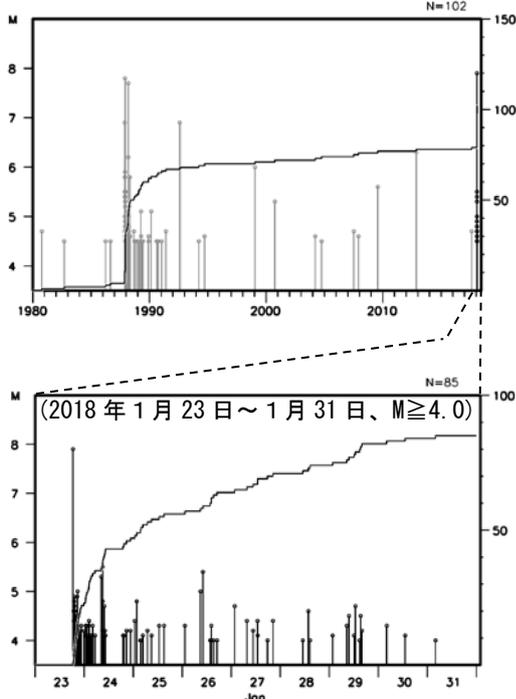
1900年以降の活動をみると、アラスカ周辺では、1964年3月28日に最大級規模の地震（アラスカ地震）（M9.2）が発生し、死者131人等の被害が生じている。

震央分布図①
（1980年1月1日～2018年1月31日、
深さ0～200km、M \geq 4.5）
2018年1月の地震を濃く表示

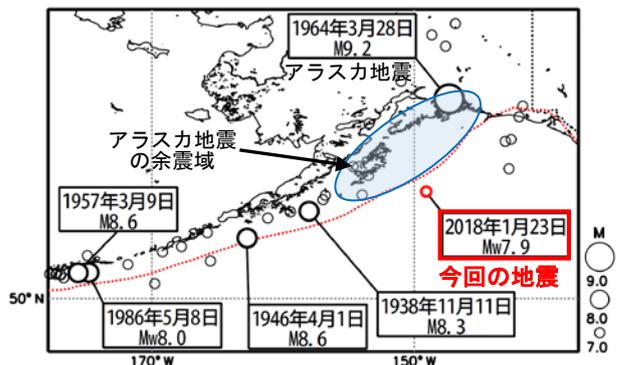


プレートの進行方向は、北米プレートを固定した場合の相対的な方向である。

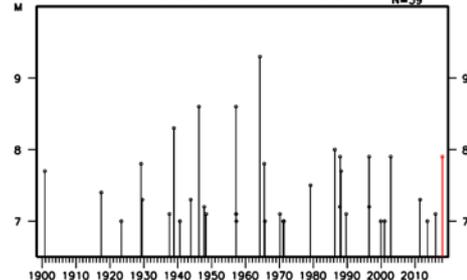
領域a内のM-T図及び回数積算図



震央分布図②
（1900年1月1日～2018年1月31日、
深さ0～200km、M \geq 7.0）
2018年1月の地震を赤く表示



上図内のM-T図



※本資料中、震央分布図①内の今回の地震の発震機構とMwは気象庁、その他の地震の発震機構とMwはGlobal CMTによる。今回の地震の被害状況は、OCHA（UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs：国連人道問題調整事務所）による（2018年1月31日現在）。震央分布図②内の2013年以前の地震の震源要素は国際地震センター（ISCHEM）による。その他の震源要素はいずれも米国地質調査所（USGS）による（2018年1月31日現在）。1964年3月28日の地震（アラスカ地震）のMと被害は宇津の「世界の被害地震の表」による。津波の高さは、米国海洋大気庁（NOAA）による（2018年1月31日現在）。プレート境界の位置と進行方向はBird（2003）*より引用。*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4 (3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.